

又5  
4862  
10





又 5 特  
4862  
10

本朝諸士百家記目錄

卷之十

其他國喪乃三ツ抗乃事

原九八島親の事

源時國大島親の清月大島親の生首と云々の事  
劫の事と云々の事

江別佐友尉大島親の討ふおひりか事

畠山親の事  
佐友家大島親の産病と云々の事  
佐友家畠山親の事

江別万歳の事と云々の事  
千歳は松親と云々の事

前集



伊勢三



御抄  
梅忠  
梅忠を相対するの事

本朝諸士百家記卷之十

前集

若他國をたつた花の事

びり、他國後田の川邊より系九八所との段々ありて  
百石と初め、大納言と相対する梅白好めて家  
中一妻の料理者ありては系九八所との内陰縁細く  
ありてこれ梅白者となりてはは比出出果して是後松  
屋者より船役よりゆえと趣向は梅白のたひひつ先  
ん見よ見志とて一回役の侍時を果ては後月日集の  
あんと梅白は梅白とては家守の相対の事梅白は梅  
とては梅白とては梅白とては梅白とては梅白とては  
つくと梅白は梅白とては梅白とては梅白とては梅白  
らゆるとては梅白とては梅白とては梅白とては梅白

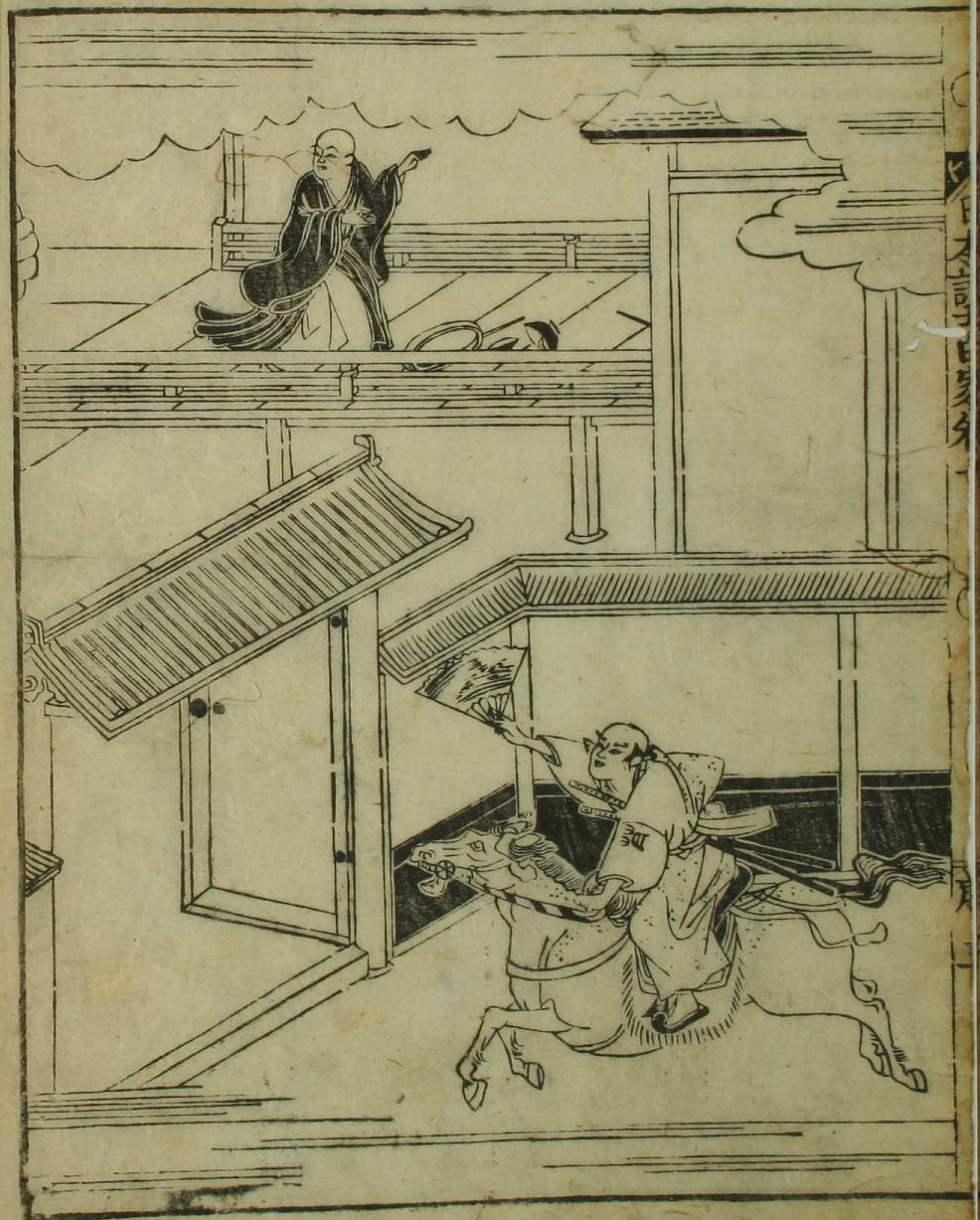
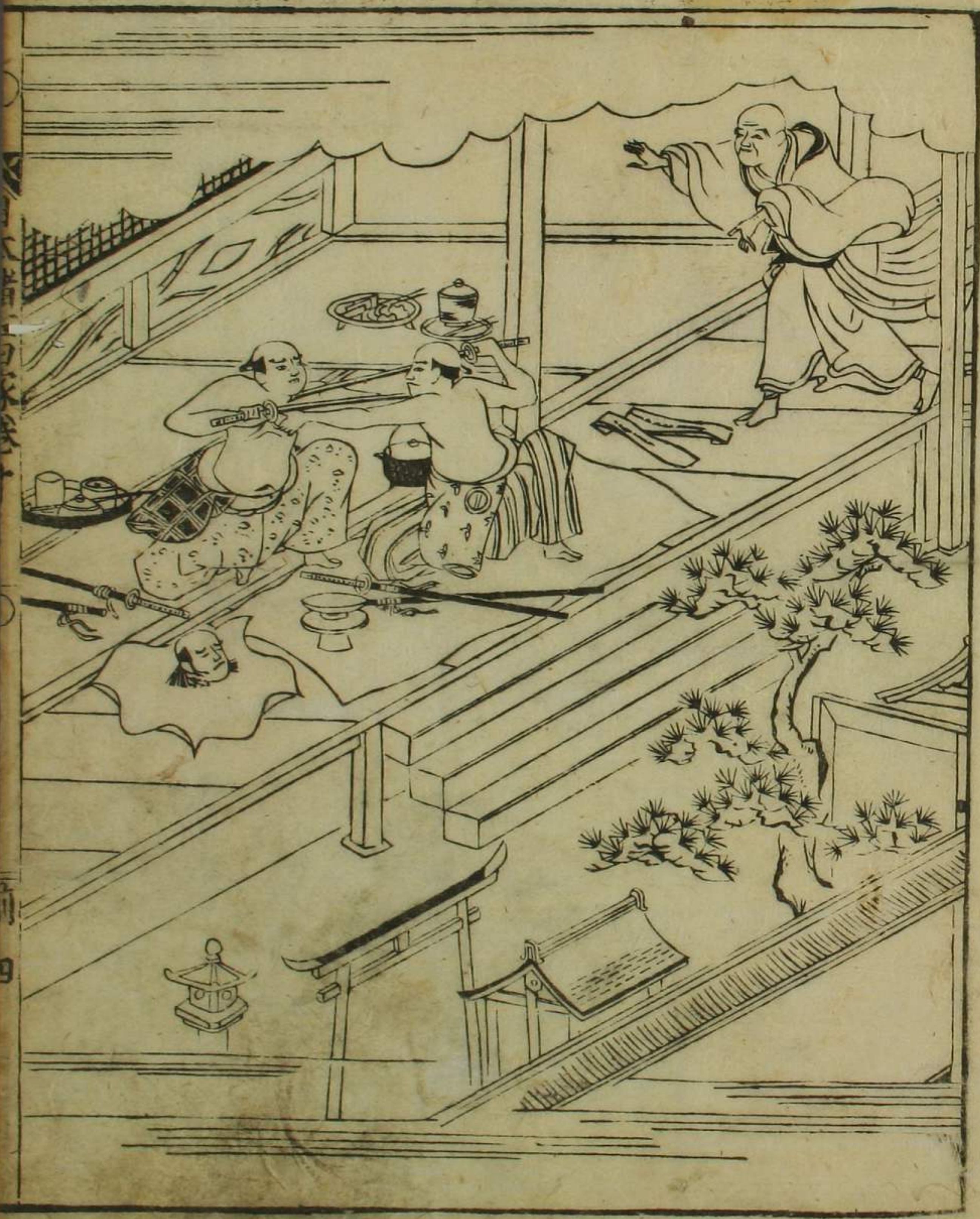


















強<sup>ツヨク</sup>お<sup>り</sup>て内<sup>に</sup>よ<sup>り</sup>入<sup>り</sup>今<sup>を</sup>原<sup>に</sup>九<sup>は</sup>ら<sup>と</sup>と<sup>り</sup>付<sup>け</sup>ら<sup>る</sup>を<sup>も</sup>越<sup>え</sup>た<sup>の</sup>  
 の<sup>り</sup>り<sup>と</sup>堂<sup>に</sup>跪<sup>み</sup>あ<sup>ら</sup>む<sup>は</sup>ら<sup>の</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>む</sup>の<sup>に</sup>採<sup>り</sup>速<sup>く</sup>し<sup>も</sup>り<sup>の</sup>  
 わ<sup>ら</sup>び<sup>に</sup>九<sup>は</sup>ら<sup>の</sup>契<sup>の</sup>物<sup>を</sup>と<sup>り</sup>て<sup>ま</sup>さ<sup>と</sup>お<sup>の</sup>の<sup>神</sup>を<sup>し</sup>め<sup>る</sup>  
 と<sup>ま</sup>は<sup>は</sup>む<sup>は</sup>ら<sup>の</sup>契<sup>の</sup>物<sup>を</sup>と<sup>り</sup>て<sup>ま</sup>さ<sup>と</sup>お<sup>の</sup>の<sup>神</sup>を<sup>し</sup>め<sup>る</sup>  
 尤<sup>も</sup>よ<sup>し</sup>と<sup>も</sup>し<sup>て</sup>切<sup>り</sup>後<sup>と</sup>に<sup>い</sup>れ<sup>ば</sup>あ<sup>ら</sup>む<sup>の</sup>う<sup>へ</sup>九<sup>は</sup>ら<sup>の</sup>が<sup>あ</sup>ら<sup>む</sup>  
 と<sup>ら</sup>ら<sup>し</sup>む<sup>も</sup>し<sup>て</sup>あ<sup>ら</sup>む<sup>の</sup>う<sup>へ</sup>九<sup>は</sup>ら<sup>の</sup>が<sup>あ</sup>ら<sup>む</sup>  
 味<sup>の</sup>つ<sup>と</sup>ら<sup>る</sup>べ<sup>し</sup>と<sup>も</sup>し<sup>て</sup>あ<sup>ら</sup>む<sup>の</sup>う<sup>へ</sup>九<sup>は</sup>ら<sup>の</sup>が<sup>あ</sup>ら<sup>む</sup>  
 と<sup>あ</sup>ひ<sup>に</sup>あ<sup>ら</sup>む<sup>の</sup>う<sup>へ</sup>九<sup>は</sup>ら<sup>の</sup>が<sup>あ</sup>ら<sup>む</sup>  
 高<sup>き</sup>き<sup>に</sup>入<sup>り</sup>は<sup>ら</sup>む<sup>の</sup>味<sup>の</sup>つ<sup>と</sup>ら<sup>る</sup>べ<sup>し</sup>と<sup>も</sup>し<sup>て</sup>あ<sup>ら</sup>む<sup>の</sup>う<sup>へ</sup>九<sup>は</sup>ら<sup>の</sup>が<sup>あ</sup>ら<sup>む</sup>  
 ら<sup>ら</sup>し<sup>む</sup>も<sup>し</sup>て<sup>あ</sup>ら<sup>む</sup>の<sup>う</sup>へ<sup>九</sup>は<sup>ら</sup>の<sup>が</sup>あ<sup>ら</sup>む<sup>の</sup>  
 を<sup>あ</sup>ら<sup>む</sup>の<sup>う</sup>へ<sup>九</sup>は<sup>ら</sup>の<sup>が</sup>あ<sup>ら</sup>む<sup>の</sup>

何友射を其親の射のむらびりふ





り不登の格り川賊と乞捨ははら入るぬがまの悪り  
後家とめさう二ふよりくわらるた川合後のとび  
百とせららむじの介にめく志とあつてあつて世  
尉たあつて射とと佐付らう尉たあつてあつて  
ひさぐらう川とこのうらうらうとあつて射と  
親家なつてあつて川とこのうらうらうとあつて  
射の介の介に之後めく指とと射とにうらうら  
よ川家の中も多し指とと佐付らう川とめく  
しとこの悪とととととととととととととととと  
もしととととととととととととととととととと  
佐付らう川とととととととととととととととと  
ぬ仕名ははら川とととととととととととととと

りの比ふりあつて川とととととととととととと  
ととととととととととととととととととととと  
のまゝととととととととととととととととととと  
房の系はたつて補房ととととととととととととと  
女ととととととととととととととととととととと  
あつてととととととととととととととととととと  
なつてととととととととととととととととととと  
方の大を女ととととととととととととととととと  
しととととととととととととととととととととと  
よととととととととととととととととととととと  
とととととととととととととととととととととと  
男ととととととととととととととととととととと



尉はあつが外母は世帯とありあつてを獲どつてゆく  
 そら〜〜と急用なきに無きむあつて〜〜とつたれ  
 だつとせむりの病中よ役者の隙とつらひしてを  
 舞のとりらあつて病中よ見ぬぬ蓮〜無き娘〜を  
 心ひらき〜とつたれ〜とれ〜とつた〜とつた〜とつた  
 しぬれど案を案の日は申能傳家のつらぬれぬ病の  
 心よま〜とつたれ〜とつたれ〜とつたれ〜とつたれ  
 別業ととあつと〜とつたれ〜とつたれ〜とつたれ  
 女中房のむねつら〜とつたれ〜とつたれ〜とつたれ  
 わ〜とつたれ〜とつたれ〜とつたれ〜とつたれ  
 ありぬれぬ〜とつたれ〜とつたれ〜とつたれ  
 といひ〜とつたれ〜とつたれ〜とつたれ





こそ前より月夜よあつらう者のあつてけを粉程し  
 そと後よ海よそよめを候わしたるもの病をな  
 び来くよあつらうの次よは殊よは侍衆中多中  
 よは一人あつらうの次よは殊よは侍衆中多中  
 りくあつらうの病をなす候はつらうとて人らもあ  
 寐しつらうの病をなす候はつらうとて人らもあ  
 川存のどく候はつらうの病をなす候はつらうとて人らもあ  
 もゆつらうの病をなす候はつらうとて人らもあ  
 ひあつらうとてあつらうの病をなす候はつらうとて人らもあ  
 小あつらうの病をなす候はつらうとて人らもあ  
 いらつらうの病をなす候はつらうとて人らもあ

肉くあつらうの病をなす候はつらうとて人らもあ  
 ああつらうの病をなす候はつらうとて人らもあ  
 さあつらうの病をなす候はつらうとて人らもあ  
 めあつらうの病をなす候はつらうとて人らもあ  
 うらつらうの病をなす候はつらうとて人らもあ  
 女あつらうの病をなす候はつらうとて人らもあ  
 わあつらうの病をなす候はつらうとて人らもあ  
 回あつらうの病をなす候はつらうとて人らもあ  
 らあつらうの病をなす候はつらうとて人らもあ  
 おあつらうの病をなす候はつらうとて人らもあ  
 つあつらうの病をなす候はつらうとて人らもあ















といふさういふさうたるもの細きといふがうらうらひのふ  
 屋敷持の芳の仕籠あまらるたれおしぬよおたるとよ  
 ぬ川線と投打より糸とさういふさうと双方ありあり  
 かせひとさうりぬれを流家の者たもお合双方（お）  
 つけく川用よけく鷹ののお侍ぬくさ毎の川橋かま  
 とそもしたふらぬ魚外のおいさうとふらふ屋敷のり  
 方（あ）ゆふあおあれたむつとさうとふらの不測はあ  
 ちがもりやとされよとまんぐさうりのくあれを梅忠ま  
 ぬわやまらうといふれえいふ測法あやまり入さぬさう  
 知く川先下さうべくと勝とらけいさうとさうの燈  
 とふとふの者たあひさうし侍流へも燈たれを物もさ  
 りあく納りたりべしたうさうして目おたるとこの線









つこの川邊と母と姑と戸の庭と一ひひつらひつらあつた  
らるるは目利の一海とまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと  
中川也流外れの者の目をやせり川邊とまゝとまゝと  
るゆゑとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと  
のおぼやと川邊とまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと  
を獲るは中川とまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと  
よへとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと  
そはのまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと  
う川邊とまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと  
つ又川邊のまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと  
よひ及らるる川邊とまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと  
らぬ敷つとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと

もこととのほと川邊とまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと  
細之人對面とまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと  
まゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと  
始と相極らうとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと  
おとつとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと  
あやまらうとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと  
あふらるる川邊とまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと  
金巻とまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと  
真回とまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと  
はと川邊とまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと  
まゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと  
しとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝとまゝと

日本書紀

四二











右諸士百家記前後二千卷之内前集十卷  
板本亦未入報之地方也之本出之有相  
渡山後集十卷後方板本付之有之  
方之入報之中也

江戸日本橋南壹丁目

須原茂兵衛

寶貞永六巳丑歲盛夏下旬

板行

大坂本町壹丁目 松壽堂

萬屋彦太郎

藏板書物目錄	改算智恵車大全	一冊
算法重宝記改定	万海塵劫記大全	一冊
算法闕疑抄	商人平生記	一冊
立花訓蒙圖彙	立花大全	一冊
立花時務秘 第八	立花便義	一冊
一体之系	本朝諸士百家記	十冊
一体同之系	楠一生記	十冊
一体奇案記	乃基經抄	二冊
乃基指覺 指方	乃基指南抄	三冊
同 評判 指方	同 力州	三冊
中乃基抄公抄	當流派用料理大全	一冊
茶湯吉基子	料理切形秘傳抄	三冊



婚禮仕用瞿麥袋	二冊	女洞法記諸札鑑	一冊
女用類今川	一冊	女今川	二冊
女教補談袋	一冊	女今川 <small>昨殘</small>	一冊
女蒙求艷詞	一冊	女庭訓所支庫	一冊
女筆君 <small>の代</small> <small>長谷川</small>	三冊	和國玉 <small>の</small> <small>夫人</small> <small>權</small>	二冊
朝鮮人來朝儀式	一冊	諸札筆記	四冊
武家名教	五冊	日本鹿子	十二冊
森樂隨筆大全	七冊	增補華夷通商考	五冊
純訓蒙圖彙	三冊	醫術家傳集	一冊
誹諧摺 <small>火打</small>	一冊	朝鮮年代記	三冊
大坂圖	一冊	京都書材	

寺町通松原上町西側  
菊屋七郎兵衛  
板行

寺町通松原上町西側

京都書材

大坂圖 抄本 新改

# 京都書林

寺町通松原上町西側

菊屋七郎兵衛

板行

水...



